

会議概要（要点記録）

1	会議名	平成30年度 第2回洲本市自殺0（ゼロ）実現推進委員会
2	開催日時	平成30年10月24日（水）午後13時30分～15時00分
3	開催場所	洲本市健康福祉館 2階 多目的室
4	出席者	<p><委員>洲本市自殺0（ゼロ）実現推進委員会 委員15人（1人欠席）</p> <p><事務局> 健康増進課長、同課長補佐、同課係長、同課職員5人</p> <p><オブザーバー> 地域包括支援センター所長</p>
5	配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度 第2回 洲本市自殺0（ゼロ）実現推進委員会 次第 ・洲本市自殺0（ゼロ）実現計画（案） ・洲本市自殺0（ゼロ）実現計画策定スケジュール
6	会議の概要	<p>1. 開会 健康増進課長が開会</p> <p>2. あいさつ 委員長より</p> <p>3. オリエンテーション</p> <p>4. 協議事項 委員長が議事進行</p> <p>①洲本市自殺0（ゼロ）実現計画（案）修正箇所について</p> <p>大項目1～6（1. 計画策定の背景、2. 計画の位置づけ、3. 計画の期間、4. 本市の現状と課題、5. 計画の基本方針、6. 自殺対策の体系）について</p> <p>（各委員の意見）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.12 の図 23 のグラフについて。母数に対してのパーセントが分かりにくい。「自殺を考えたことがある人の中で」と書いてあるといいのではないか。質問項目のところに入れればいいのではないか。グラフの下に入れるとややこしくなると思う。 ・ p.13 から小学校中学校全体のアンケート結果が掲載されているが、元をたどって p.9 を見る、と対象は 20 歳以上の市民 2000 人とある。小学生と中学生にアンケートをしたのが別の機会なのであれば、時期とか意図を前段に入れても良いのではないか。 <p>また、p.19 の洲本市の課題というところで、一番高いのが男性 40 代無職、その次が女性無職その後が 30 代有職の方であるので、成人期の所に働き盛りの方の課題で仕事をもっていないという課題も含めたらいいのではないか。見ていてどこに入れたらいいのかは自分も迷っていたが、例えば○2 つ目の複数の問題に遭遇しているという括弧書きの所に職場環境であるとか原因の中身が掴めていないので難しいかなと思うが、働き盛り層の課題があればいいなと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ p.19 現状と課題について。「洲本市ではまだまだ精神疾患に…」とあるが、洲本市だけではないと思うので表現の仕方について疑問を感じる。「洲本市でも」だと分かる。 ・ 数値が読みとりにくいので、数字を白抜きにしたり数字を外に出したりするなど工夫があればいいと思う。 ・ 全体的にグラフが同系色であるため見えにくい。配色を変えた方が見やすくなる。 <p>②洲本市自殺0（ゼロ）実現計画（案）提示について</p> <p>大項目7～9（7. 基本施策、8. 計画の推進体制、9. 資料編）について検討・意見交換。</p>

(各委員の意見)

- ・ p.31 の 24 時間相談については、電話番号を入れてもいいのかなと思う。昼間は内線で回してもらえが、夜間にかけてられる番号は分からないので。

- ・ p.33 にスクールカウンセラーのことが書かれているが、高校のキャンパスカウンセラーの事業がある。月に 2～3 回。県の教育委員会の事業だが、そこから依頼を受けて訪問したりしている。洲本だと洲本高校・洲本高校定時制・洲本実業高校・蒼開学園。全島全ての高校から依頼されて派遣している。その中で教員むけの研修で自殺のことを取り上げている。

1 つ気になったのが、県の自殺対策で H18 に委員会立ち上げ、現在は市の方に移行したが、精神保健福祉協議会で自殺対策は継続してされている。大会の方で啓発の講師を呼んで研修を行ったりしているので精神保健福祉協議会も計画のどこかに入れたらいいと思った。

- ・ 50 歳未満の健康診断を実施しているが、身体の方ではなくメンタルの方はまだまだ進んでいない。ストレスチェックをしていない企業もまだある。各企業に対してパンフレット配布してもいいと思った。ストレスチェックについての制度についてわかるようにできるといいと思った。

- ・ 生活困窮や多重債務の関係で、おもに多重債務の相談会を月 1 回している。その相談会の中で心の悩みについて相談をうけることがある。司法書士が介入できるように研修も行われている。

- ・ 福祉関係からすると、自立支援協議会との連携、相談会、意見交換が必要だと感じている。ピアサポーター、当事者との関わり、活動について活用していくことが必要。また、相談する人が相談者を選べるということも大切で、相談する人を選べる街づくりをしていくべきだと思う。

- ・ 企業側としては、自殺者の構成に勤め人の割合が多いのが驚いている。年金等生活者や高齢化問題はよく言われている。ただ、今後大変なのが、年金支給が 70 歳になるということ。60 歳超えた段階で何らかの理由で仕事に就けないと、70 歳まで年金支給がされないという大変な時代が来る。病院に来られた人で必要な人にはライフプランナーのような看板を立てたような相談も受けることになるのではないかと…健康相談イコール生活相談という時代になると思う。企業の方も何もしなければ外的要因に潰されてしまう。個人の生活において生きる術を身に付けるために、何らかの指導体制が必要と思う。

- ・ p.30 民生委員・児童委員事業について、次のページまで繋がっていることが分からなかった。ページをまたがないようにした方が読み手は分かりやすい。私の所属機関ではこのような計画を立てて、組織が大きく活動をしているということはないが、1 軒 1 軒まわってみんなの悩みを聞いたり相談を受けたりすることはしている。

- ・ 各部署から集めて一覧にしていることもあり、文末の表記がまとまっていない。読み手の視点に立って、ですます調や箇条書き等、もう少し丁寧にした方がいい。

- ・ 消費者トラブルと無料法律相談と書いてあるが、本市、消費生活センターは市民課の中にあり、2 名の専門相談員がいる。開庁している 8:30～17:15 で消費生活相談に対応している。その他、月 2 回、県の弁護士会の方より弁護士に来ていただき無料の法律相談を行っている。

また、人権啓発・人権教育については、年 4 回開催しているが、今年度は 2 回終わりました 1 回目は部落差別について考える、2 回目は子どもの人権について考える、3 回目は女性の人権に

について考える、4回目はこころのについて考えるという内容で開催している。

- ・町内会長宛に通知を送り、広報などに載せて行っているが、企業に対する広報はできていないため、次年度については広報の仕方も考えていきたい。

- ・計画で気になったのが、「④生きるための促進要因への支援」で、自殺の本当のハイリスクの人は障害者や精神の病気を持っている人になると思うが、その人が相談をするのは福祉課の方になると思うので、そこの記載が抜けているのではないかと。

- ・小中学校での教育相談を実施したりとか、小中学校ではいじめに関してのアンケートを学校によっては月1でやっているの、SOSの出し方かどこかに入れれるといいのではないかと考えた。

- ・私の仕事の体験から、新しい方と仕事で出会ったときには声を掛けるようにしている。100%悩みを聞くと言うのは無理だとは思いますが、出来る範囲でこれからも意識していきたい。また、月1回特別養護老人ホームに行くことがあり、その時に死にたいと言うおじいさんおばあさんがいる。何かできるわけではないが悩みを聞く機会はある。今までずっと来られていた人が急に来なくなった方がおられ、近所の方に聞いたところこれまでは綺麗にされていた人が髪も伸ばし放題になっていると。失礼のないように会ったときに声を掛けると、お金が無いと言わないが、料金はいいからと対応するとありがたいと表情が明るくなった。今思うと身なりにも構わず、自暴自棄になっていたのだと思う。その方は自殺するような方ではなかったかもしれないが、組合の中でも気付いていこうと言う話はしている。

- ・警察での事業はなかなかない。パンフレットは受付に置いている。相談に来られた方で、自殺とかうちの旦那変なんやとか、話を聞いてアドバイスしたりすることはある。その他は、実際に自殺を企図した人、やった人、そういう人を発見して保護したりと、そのような関わりは大きい。こういう冊子があれば家族の人にも説明しやすいし、話がしやすい。ただ夜間は行政はしていない。そこはどうしたらいいのか。朝まで警察ににいるということも多々ある。どこに繋いだらいいのかというと65歳以上は地域包括、母子であれば子ども子育て、障害者は障害福祉。その他の対象はどこにつないだらいいのか分からない。なかなか繋ぎ先が難しいと思う。なるべく早く手を打つために相談に繋がるのが大切だと思う。

- ・p.27に高齢者虐待防止とあるが高齢者虐待があるのであれば、児童虐待、障害者虐待の防止について記載が欲しい。社協では3つ。1つは総合相談。自殺に関わらず何でも相談をしている。最近では社会福祉の資格を持った人が対応している。その中でさまざまな問題が社協の方に寄せられるが、相談を聞いてから、さまざまな関係機関に相談窓口を紹介させてもらっている。2つは、今年度から始まりましたが権利擁護デスクを社協の方で開設している。高齢者障害がある方の権利を守るための相談窓口と法定後見をしており、大事なポイントだと思っている。3つは不登校、引きこもりの方の支援をしている。家族会、若草カフェ。実際に自殺未遂した人も手伝いに来られている。このような方の集う場所は大事だと感じている。

それと計画に関係してくるかは分からないが、小中の児童生徒のSOSの出し方について、なかなか自分でストレスを出しにくい方が特に多い世の中になってきていると思う。昔は、周りの大人や地域の方がおそろくいつもと様子が違うなと何かしら声を掛けてくれたりして支援に繋がっていた。今はそうそういう社会ではなくてSNSで繋がっていて周りが気付くということが減っているのかなと感じている。

学童保育は低学年のみしていたが、今は4～6年生まで広げていただいて学校と家庭では違う表情がみられることがある。それを迎えに来た保護者に子どもたちの状況を伝えることで家とは別の様子が保護者に伝わって子どものしんどさを早期に発見できるきっかけになるのかなと思う。中・高になると部活動や習い事に通っている子も多く、気づく機会もあるのかなと思うが、生活困窮などで習い事等通えてないお子さんもたくさんおられると思うので、そういう方々をどこかの居場所でキャッチしていけるのかなということを考えていかないとと思っている。高校生は社協の方から各高校の先生方に案内し野外活動に積極的に参加していただいている。そういった交流から周りの大人が関われるということが大事なことだと思う。

あと、生活困窮の方々が今後益々増えてくると考えており、実際社協では、生活保護を受けたいけども受けれてない方が相談で食べるものがないとか着るものがないとか聞くと、その時々への対応になっているが、どこにもこのような人たちの受け皿がなかったら自殺に繋がってしまう可能性について心配している。

6. その他 第3回委員会の予定について

7. 閉会 副委員長より